西東京市市民協働推進センター

平成30年度第6回運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成30年10月16日(火)午後7時00分～9時00分
■開催場所：イングビル3階第3、4会議室
■出席委員：海老澤委員、柿本委員、熊谷委員、古林委員、櫻井委員、佐藤(文)委員、佐藤(留)委員、鈴木委員、三好委員＜以上9名、五十音順＞
■事務局　：小松センター長、鈴木副センター長、山田地域福祉推進課係長

1.報　告　事　項

1.業務報告について

事務局より、9月期の主催事業、ホームページアクセス数、新規登録団体、市民活動相談の状況について説明があった。

委　員：相談だが、終活の相談では一つの団体ではなく、終活に関連した団体も紹介するのか。
事務局：そうだ。今回は司法書士を教えて欲しいとのことだが、併せて紹介はしている。
委　員：訪問者数だが、ユニーク訪問者となにか。
事務局：イベント情報など同じ人が何度も訪問しても1人とカウントし、訪問者数はのべの訪問回数だ。
委　員：南部地域の拠点とはなにか。
事務局：拠点は南部地域にある自治会などだ。災害時に横のつながりを作りたいので、参加していない自治会の情報を社協の担当職員に協力してもらい南部地域に入っていない自治会へどう声掛けし、つなげるか

などを話し合った。

委員長：命のハンカチとはなにか。
事務局：阪神淡路の震災をきっかけに始まったことだ。震災にあった家に住人は健在だが他所にいるという目印に使うハンカチだが、防犯の問題もあるので検討している。南部地域ネットワークの中で予算をとって作成してはどうかという動きが出ているが、自治会により考え方が違うので今後の動きは随時報告する。
委　員：保谷駅前公民館からの相談だが、ゆめこらほが主催でやって欲しいとのことか。
事務局：違う。保谷駅前公民館が主催してやりたいのでノウハウを教えて欲しいという相談だ。
委員長：こそだてフェスタに参加して成果はあったか。
事務局：南部地域での開催だったため、参加しやすかった。ゆめこらぼに親子で来訪する数が増え広報につながった。

2. 10月以降の事業について

事務局より、10月以降の実施事業について説明があった。

委　員：まちづくり円卓会議は、今年度第1回目か。会議メンバーは決まっているが、参観者も話し合いに参加するのか。
事務局：そうだ。参観者も空き家に関心ある方だと考え、一緒に意見交換する時間も設けている。

委　員：目的としては空き家をもっと活用してまちづくりに活かそうという方向性で考えているのか。

事務局：1回の開催なのでそこまでいくかは分からない。西東京市の現状を伝え、空き家があることにより周辺に及ぼす影響など実際にある課題や事実を共有し、空き家を作らないようにする。空き家の利活用の話になるか筋書きがない会議なので分からないが、まずは事実確認をしていく。

委　員：テーマについてはとても関心がある。韓国で国際親交で登壇したが、同じ演壇で台湾の方が空き家問題の発言があった。台湾市内でも同じ問題があり、空き家を再生させる取り組みの事例が面白かった。自分たちの活動でも緑地と空き家の活用は切り離せないと考えている。空き家問題は今後も増えてくる課題なので実際に活用した事例も併せて展開していけば連携が取れるようにも感じている。今後も継続してやって欲しいテーマだ。

委　員：参観者からも色々な発言が出ると思うので、どのような意見が出たか後日報告して欲しい。

委　員：空き家は世界の都市で問題となっているので、今後の展開に期待したい。

委　員：隣家の一人暮らしの方が亡くなり空き家となった。たまたま親族の方にお会いする機会があり話を聞いたら、同居していなかったので、同じ町内会であっても誰にどこまで知らせて良いか分からないということで近所であっても持ち主が亡くなり空き家となった事実を知る機会がない。しかし、庭などが荒れてきてこうやって空き家になるのかと感じた。

委　員：メンバーには空き家会議のメンバーも入っているのか。

事務局：入っている。

委　員：話題提供者がそうか。

事務局：話題提供者は実際に空き家を抱えている方だ。

委　員：市と共催で開催されるシポジウム「空き家会議」が11月16日にコール田無であるが都内でも珍しいと思う。

委員長：なぜ空き家になるのか。普通なら売却や貸すなど活用されるのではないか。

事務局：行政書士と打ち合わせて分かってきたことだが、子どもが一人なら手続きも順調だが、兄弟がいたりするとたくさんの利権が絡んできて処分が困難になる。また持ち主が施設に入るなど子どもたちも勝手に処分できなくなるなど手が付けられない現状が続き空き家となる。

2. 審　議　事　項

1. 前回の会議録について

委員長：会議録は確定稿とする。

2. 事業報告及び決算について

事務局より、平成30年度上半期西東京市市民協働推進センター事業報告（案）について説明があった。

委　員：9月末現在での報告だと思うが、成果の部分で親子連れの来訪者が増えたとか、企業に向けてアプローチしている等記載してはどうか。

委　員：face book以外とはなにか。

事務局：Twitterやブログだ。

委　員：face bookはもっと更新して欲しい。

委　員：face bookとTwitterを連動させるとよい。

委　員：クラウドサービスとは具体的にどのようなことか。
事務局：ホームページの中で機材の貸出など連動させているがまだ、工夫が必要だと考えている。
委　員：おとぱミディサロンは半年開催してどうか。
事務局：定期開催なので定着してきた。情報交換の場として機能していると思う。ゆめこらぼの企画にも意見がもらえる。
委　員：こういう試みをしている中間支援センターはあまりないので、珍しい。課題としてはメンバーに変化がないなどはあると思うが、じわじわと広がれば良いと思う。サロンで意見は出るのか。
事務局：まちめぐりなど事業の企画に対する発言はある。自分の意見が反映されることもあり、企画に対して協力的だ。また、自分のやっている活動報告もできる場としても活用してもらっている。
委　員：こういうコミュニティの場は大切だと思うので継続して欲しい。

3. 事業計画及び予算について

事務局より平成 31 年度西東京市市民協働推進センター事業計画・予算（案）について説明があった。

委　員：市民活動団体実態状況調査は何を明らかにする目的があるのか。
事務局：団体の規模や事業の中身などをアンケート形式で調査する。
委　員：3 年毎の調査で団体が 6 年前と現在とどう変わったかなどか。それを把握して何に活かすのか
事務局：そうだ。プロポーザル時に調査をすることをうたっている。調査結果をもとに事業を展開していく。
委　員：登録団体にだすのか。回答率はどうか。
事務局：基本登録団体と市内の未登録 NPO だが、回答率は低い。
委　員：実態調査は必要なことだと思う。
委　員：回答がなければ、登録団体が現存するか分からないのではないか。
事務局：年に一度の更新作業で団体の把握はしている。実態調査の内容と更新するための内容は異なる。
委　員：更新時にアンケートへの回答をセットにしてはどうか。
委　員：アンケートは郵送か。
事務局：ウエブ上で行う。調査を行うインフォメーションもしている。
委　員：団体の中でも数値的なことは把握している人としていない人がいるので、そこで回答が止まってしまうこともる。具体的に記入するのは大変なので選択性だとよい。
委　員：アンケートの質問項目や内容はゆめこらぼで作るのか。
事務局：そうだ。
委員長：事業計画・予算の最終確定はいつか。
事務局：2 月になる。
委　員：相談事業の中から今後事業が生まれることはあるのか。
事務局：今回のパワーアップ講座は相談から始まった。
委　員：それは成果としてあげて欲しい。
委　員：メールボックスの提供とはなにか。

事務局：引き出しタイプのものを1団体1か所貸し出している。
委　員：どんな利用方法があるのか。
事務局：チラシの配布や団体間のやり取り、郵便物の受け取りに利用している団体もある。
委　員：他の中間支援組織もメールボックスはあるのか。
事務局：自治体による。府中はもっと多く設置しているが有料である。
委　員：西東京市は市民活動が盛んだと聞いている。
事務局：市民活動団体は多いと思う。
委員長：他市から視察に来ることはあるのか。
事務局：確か23区から視察に来たことがある。
委　員：どういう目的で視察に来たのか。
事務局：市民活動センターを設置するため、同じ規模のセンターであること組織の概要や運営における課題など知りたいとのことで現場を見学したいとのことだった。正式な申込がなく見学に来たこともある。
委　員：他市にくらべ市民の盛り上がりを感じている。行政のモチベーションが他市と違う。5区市の審議会に出席しているが、西東京市が一番元気で縦割りではなく横のつながりができつつあると思う。
委　員：緑公園課では指定管理を受託する時、仕様書に市民協働担当をつけることが入っている。西東京市だけの試みだと思う。
委　員：行政の中で協働することがまちを良くしていくことだと伝える必要がある。

3. 協　議　事　項

1. 自主企画委員会（新規事業）について

事務局より自主企画委員会の進め方について説明があった。

委員長：進捗があれば次回報告して欲しい。

4. そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

日時：11月20日（火）19時～21時　　会場：イングビル3階　第3、4会議室